

第5期 pES club シナリオ 3

平成 18 年 4 月 2 日

東京医科歯科大学大学院 健康推進歯学分野

南郷 里奈

虎の門病院分院 内科総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

あなたはペコデンタルクリニックの4年目歯科医師です。

霧柴昌佳さん（23歳女性）は数年前から当院で定期的にチェックを行っていましたが、就職のため引っ越すことになり、かかりつけの歯科医院も新たに探してもらうことになっていました。

そんなある日、霧柴さんから電話がかかってきました。

あなた「お久しぶりですね、霧柴さん。仕事を始めてから、どうですか？」

霧柴さん「はい。元気にしています。毎日新しいことばかりで、忙しいですが、楽しく過ごしています」

あなた「そうですか。それは良かったですね」

霧柴さん「ところで先生、先日初めて近所の歯医者さんに行ってみたんですよ」

あなた「そう、いい歯医者さん見つかった？健康な歯だって言われたでしょ？」

霧柴さん「それがね、先生。わりと最近できた歯医者さんらしいんですけどね、新しい器械を全部の歯に当てて、なんかの数字をぶつぶつ言っていたんですよ」

あなた「新しい器械？数字？それで、なんて言われたんですか？」

霧柴さん「私の歯、奥歯のところにむし歯があるから削って詰めなきゃいけないんだって。なんでも、見た目では分からなくても、その器械を使うと溝の奥の方にあるむし歯が分かるんだって。私、ずっと先生にむし歯はないって言われていたから、ショックで．．．」

あなた「そう．．．で、その器械、なんていう名前だって言っていました？」

霧柴さん「良く覚えてないんですけど、ダイアゴンなんとか、だったかな．．．」

霧柴さんのカルテを見直してみましたが、やはり、特にう蝕などは無く、半年前の最後の診療でも、クリーニングだけ行って終了していましたが、DIAGNOdent®は、あなたもデンタルショーで目にしたことがありましたが、う蝕の診断に本当に有用なのか、調べてみることにしました。

第5期 pES club シナリオ 3 (追加シナリオ)

平成18年4月2日

東京医科歯科大学大学院 健康推進歯学分野

南郷 里奈

虎の門病院分院 内科総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

霧柴さんは、高校生の頃、学校の歯科検診で歯石沈着と歯肉炎を指摘されたのを機に、当院に通院するようになりました。正しいブラッシング法を指導するとすぐに歯肉炎は改善し、現在まで良好な口腔内状況を保っていますが、歯石がつきやすいこともあり、ほぼ半年ごとに定期チェックとクリーニングを行っていました。

霧柴さんによれば、新しい歯科医院でう蝕を指摘されたのは、下顎の両側の第一大臼歯とのことです。DIAGNOdent®での測定中、咬合面の裂溝の一部で30を超える測定値が示され、内部でう蝕が広がっている可能性が高いので直ちに治療が必要と言われたそうです。

霧柴さんの下顎の第一大臼歯には、裂溝を細くなぞるようにシーラントが施されています。これは、歯が萌出して間もなく、当時通っていた小児歯科医院で処置されたもののようですが、現在まできちんと維持されており、半年前の健診でも、歯質の変色などといった、う蝕を疑わせるような所見はありませんでした。1年前に撮ったX線写真を見直してみましたが、やはり異常はみられません。その他の歯にもう蝕はなく、あなたも羨ましく思うほどのきれいな口腔内でした。

元来真面目な霧柴さんは、仕事を始めて忙しい毎日でも食事は必ず3食とるよう心掛けており、ブラッシングも朝晩2回、市販のフッ化物配合歯磨き剤も使って、これまで通り丁寧に行っているそうです。間食はあまりしない方で、現在でも、午後の休憩時間に少しだけ甘い物を口にする程度とのことでした。

ずっとカリエスフリーを誇りにしてきた霧柴さんですから、今回のことはとても不安に感じているようです。